

宗谷

宗谷教職員組合

「宗谷情報」No.22 平成27年2月3日発行
発行責任者：高 一伸

〒097-0004 稚内市緑2丁目4-21 宗谷教育会館
Tel 0162-22-2480 FAX 0162-22-2484
web : http://www.soya-teachers.org Mail : info@soya-teachers.org

メール
はこちら



思考停止に追い込まれない取り組みを

私たち自身の問題として「知る」ことききあひあひ

賃金確定交渉を終えて：

道教組・道高教組は、一月二十八日に賃金確定交渉を行いました。結果については、すでに職場集会で確かめ合っていることと思います。二〇一五年度も独自削減が続くという結果の中に、どんな希望を持つのか、私たちはどのように運動を続けるかという問いをまもります。

見えた！次のたたかい。教育者の心に響く「委員長まとめ」

道独自削減が二〇一五年度も継続されるなど、交渉の結果は決して良いものではありませんでした。しかし、こうした誠実ではない道の教育行政は、何によってもたらされているのかという本質が明らかとなった賃金確定交渉となりました。

道教組・西野委員長がまとめとして発言した中に、道の賃金問題の本質があります。

三期続けた高橋はるみ知事が、四月の知事選に出馬することを表明しています。道独自削減は、堀知事の時代にはじまったものです。そして、「道財政が好転してきた（高橋知事の年頭あいさつの要旨）」にも関わらず、二〇一五年度も継続される

道・道教委は、これまで幾度も、「今年度限りで独自削減は終了する」と交渉で発言し、その翌年には撤回することを続けてきたのです。

西野委員長は、教育条件という視点から私たちの働き方の問題、賃金の問題を道教委（教育長や課長級の幹部）にぶつけました。その瞬間、交渉に参加した私たち組合員だけではなく、道教委のみなさんの心も揺さぶられた様子を感じることができました。

「それでも、何も変わらない。」
——そうして敗北感や無力感を感じるのではなく、私たちの要求の実現の方策をみんなまで考え合っていきましょう。

「それでも、何も変わらない。」
——そうして敗北感や無力感を感じるのではなく、私たちの要求の実現の方策をみんなまで考え合っていきましょう。

ということ、高橋知事の政治的な采配によるところが大きいということも明らかです。

回答には、任命権者の誠意がまったく感じられない！
教職員の人的条件を下げることは、教育条件、教育の質を下げることだ。北海道の教育の問題、いじめや学力問題は、今後もっと悪くなるだろう。その責任は道教委にある。

その根本は知事にある。責任を取って辞めるべきだ！知事は私学助成を求める高校生に会おうとしない、北海道の子どもをかわいと思わない人。

この交渉は、子どもの未来の話、子どもに携わる教職員の話、道教委のみなさんに使命を果たしてほしいと願う話し合いだ。

今日の回答は実に情けない。リーダーである教育長には、知事にしっかりと要求してほしい。



道教組・西野委員長のまとめ(要旨)

2月14日は定期大会

宗谷教組の運動を確かめ合い、これからの1年への展望を持つ節目、定期大会を2月14日に行います。事前にお送りする議案書で各分会での学び合いや、本部役員選挙、規約改正の組合員投票などにご協力をお願いします。

宗谷教組規約の改正を行います。

==本部書記次長の定数に関わって==
宗谷教職員組合規約の改正を行います。本部役員定数に關してです。現行では下記の表のとおり、書記次長は「2名」となっています。

改正案	現行
第31条 この組合に次の役員をおく (中略) 書記次長 若干名	第31条 この組合に次の役員をおく (中略) 書記次長 2名

宗谷教組の運動を長い目で見通した際に、「まずは、書記次長を引き受けてもらい、本部の活動をしていく中で、その後の（書記長や副委員長などとしての）活躍を期待したい」という考え方を取る必要があります。そのためには「書記次長」を「副委員長」と同様に「若干名」とする必要があるという判断から規約改正を行います。

難しい、よくわからない、それでも、思考停止にならないために……

交渉結果を確かめ合う各分会の様子の中に「現給保障とか、給与の仕組みとか、難しすぎてわからない……」という声がありました。

私たち教職員は、日常生活の中でお金のことはあまり考えないものです。本来、自分自身の賃金などに苦悩せず、子どもたちの教育活動に励むことができないならならぬのです。

しかし、そう甘くないのが現状です。「難しいからわからない

って無関心になってくれたらいいな」……もしかしたら、道教委の中核ではそんなふうに見えるのかも……と思ってみたら、無力感よりも悔しさが出てきませんか？

思考停止に陥らせ、つながりを断ち切っていくのは新自由主義の手法のひとつです。分会に集い、わからないことも解明しながら、学び合っていくことも私たちの取り組みのひとつです。

「組合を愉しむ」定期大会資料集に 元気が出る巻頭特集を企画

昨年、定期大会を節目に発行している組合の冊子を「議案書」から「資料集」へ変更しました。「あれ、組合のこれってどういうことだったけ？」というときに1年間お手元に置いていたとき、活用するアイテムとしての変身です。

今年はさらに見直しを加え、「読み物」として元気が出るものにしたいという願いを込めました。大きな変化として、巻頭特集を企画しました。パラっとめくってすぐの2ページに「読み物」を掲載しています。

この読み物「組合を愉しむ」というテーマにインタビューをしたものです。

2月14日 札幌で道徳教育フォーラム

2018年から「道徳」の教科化が実施されます。すでに、心のノートの活用について文部科学省による指示が厳しくなるなど、今後の動向が気になるところです。

このたび、「道徳教育フォーラム」という集まりが発足します。道教組や北海道子どもセンターで活躍されたみなさんを中心に、教科化に向かう情勢を知り、豊かな教育実践を学び合うための集まりです。

宗谷教組定期大会と同日開催のため、参加は難しい面もありますが、ぜひ参加してみたい場合は宗谷教組本部までお知らせください。

2月28日 先生とたまごのがっこ テーマは算数の授業づくり

青年部と臨教部による合同の学習会「先生とたまごのがっこ in soya」。11月から始まり、今回で3回目を迎えます。

1月の学習会では「学級通信の書き方」をテーマに学び合いました。

見栄えを良くするテクニックだけでなく、学級通信を発行する際に伝えたい思いや願いをどう盛り込むかということまで踏み込んで参加者で学び合いました。2月の学習会では、「算数・数学の授業づくり」をテーマに学び合います。指導案を持ち寄るだけでなく、模擬授業もしたい…ということです。

日時 2月28日(土)14:00~16:30
場所 宗谷教育会館



インタビューより抜粋

◆(組合は)「我々が働きやすい職場というのはどういうことか」みたいなことを求めればいい。そこが一番大事なんだと思うんだよね。

ここで働き続ける…として、何が俺らの働きやすさなのかということを考えていたら楽しそうな気がするんですよね。

◆少ない人数で腹を割って話したら、何人かが「わりとよかったよ」ってなって、得るものもあるし、10人…20人と増えていくんじゃないかな。

◆教職員組合は、「それぞれの学校という組織を離れて、もう一つ違う場所で人とつながれる場所なんですよ、ここは」…ということだと思ってるんだよね。ここで権利を主張しようというのもあるけど、今の時代は「人とつながれる場所ですよ」って考えると、組合というものも非常に納得できるものになるんじゃないでしょうか。

定期大会の冊子は、
大会当日に配布します。
また、2月16日以降に
分会直送でお届けします。

昨今、「組合に入ることのメリットってなんなの？」という若い世代の声をよく聞きます。忙しい毎日の中で、学校の仕事をめ

いっぱいがんばって、組合の活動をさらに…というのはしんどさがあるのは事実かもしれません。そこで、こうした声に対する応えになり、とつても元気が出るインタビューの様子をお届けしています。「組合ってなんだろう」ということがストンとわかる素敵な読み物ができそうです。

宗谷の四季

道教組・道高教組の合同会議と、北海道子どもセンターの総会に出席するため、札幌に行ってきました。このふたつの会議では、社会情勢や教育課題がいま、どのようになっているのかということや学び、それだけでなく教育の専門家として、そうした情勢が子どもたちや保護者の生活などにもどのように降りかかっているのか、子どもたちの苦しさはどう表れるのかということも考えることができる貴重な2日間を過ごすことができました。

北海道子どもセンターは発足以来、電話相談を中心に活動を進めてきましたが、これからは教育講座をひらいたり、情報の発信にも取り組んでいくよう予定です。…とはいえ、北海道子どもセンターというものの自体、宗谷の先生方にはあまりなじみがないかもしれません。宗谷以外の各単組からの主任手当拠出金などをものにして運営されている、子育てと教育を豊かにしていくための機関です。事務局は道教組の事務所の一角にあります。もちろん、宗谷の先生方も電話相談できますよ！

宗谷の教職員組合運動には長い歴史と財産があります。そして、そこには他を寄せ付けない独自の部分があるのも事実です。しかし、これからの運動づくりではそれではいけないのではないかと感じました。道教組や全教、そして子どもセンターのような教育団体と連携を深めながら運動を進めていくことが大事なのではないかということです。

こうした展望を語り合うのが、二月一四日の定期大会です。私たちの運動のあゆみを確かめ合い、「こんな組合にしていきたいね」ということを語り合いましょう。たくさんの方の組合員のみならずの参加をお待ちしています。

一人で悩まないで、お電話を!
「学校に行きたがらない」「やめたい」というの… 発達におくれが…? いじめられる! 等々
北海道子どもセンター (札幌市東区北9条東1丁目2-22) 携帯電話からは011-733-6606へ
0120-603406
子育て・教育電話相談 月~金 (13:00~17:00)